

ろくおん通信

発行日：1994年4月15日

No. 62号

発行者：盲人情報文化センター録音製作係

リクエスト図書一覧

以下の図書は利用者から製作依頼を受けている図書です。

グループの方で、音声訳が可能な方がありましたら録音製作係までご連絡ください。

- 1『概説統一原理レベル4』／レベル4編集委員会：＜宗教＞
- 2『無功德58号. 59号』／承福寺著：＜宗教＞
- 3『俳句会報みまつ8. 9. 10月号』／みまつ俳句会編＜詩歌＞
- 4『神道の成立』／高取正男著：＜宗教＞
- 5『蓮如 吉崎布教』／辻川達雄著：＜仏教＞
- 6『1928年。御大典の裏側で』／田中伸尚著：＜歴史＞
- 7『ノーマライゼーション研究』／＜社会福祉＞
- 8『鍼灸学』＜東洋医学＞
- 9『鍼灸医学における実践から理論へパート2』
- 10『論巧』＜東洋医学＞

◎リクエスト協力グループ

えくてもあ
グループ84
グループ汐
コスモス
テアライブラーにしのみや
みなわ（奈良）
ボランティアいずみ
ICCBリクエストグループ

ご案内

第1回

東洋医学音訳研究会

日時：5月20日（金）

15:00～16:30

講師：片山一夫氏（国立神戸視障センター）

場所：盲人情報文化センター 6階

参加費：100円（資料代等含む）

※毎月第3金曜日実施

第1回

音声訳研修の会

日時：5月26日（木）

13:30～15:30

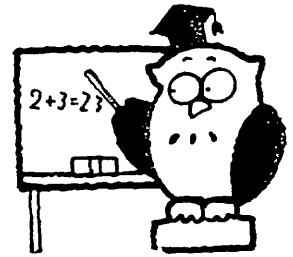
場所：盲人情報文化センター 6階

参加費：無料。どなたも参加出来ます。

内容：チームに分かれて処理の研究を行います。曜日が変わりました。

「音声訳」を考える(第13回)

音声訳の原点



録音製作係 清水賢造

音声訳を考えるシリーズも1年を越え、いつのまにか13回目を迎えてしまいました。音声訳とは何かというテーマで始めましたが、今では音声訳というものがどんなものかということが私自身の中でも整理されてきたように思いますので改めて、音声訳の定義について触れてみます。

「音声訳とは何か」と聞かれた場合、私は「音声訳とは、録音技術、調査技術、表現技術、音声変換技術(処理技術・構成処理技術)などを駆使しながら、活字で表現されているさまざまな内容を聞き手に正しく伝える作業」のことであると思います。

よく音声訳と朗読との違いが問題になり、「音声訳は感情を入れずに淡々と読むべきだ」とか、「音声訳は書かれている通りに声置き換えるわけだから誰でも簡単にできる」とか、「書かれている以外のことを付け加えたり、削除したり勝手にしない」などと云われたりしています。

しかし、これまでの音声訳についての議論で一番抜けている視点は、この仕事が誰の為の仕事かということです。視覚障害者のための録音図書であるからには、視覚障害者が音声で聞いても内容が正しく伝わるようなものでなくてはなりません。書かれているとおりに読んで内容が伝わらなかつたら録音図書としての価値はありません。「表現読みは音声訳ではない」とか、「淡々とした読み方が音声訳だ」などといった議論は、音声訳の本筋からははずれた議論だと云えるでしょう。

小説などでよく表現読みが問題になりますが、ある程度の表現読みをしないと会話文などでは内容が混乱してしまいます。会話をスムーズ伝えようとするには一定の表現技術が必要となります。淡々とした読み方をしながら聞き手には良くわかる読み方、これはたいへん高度な表現技術を必要とします。問題になる「過度な表現」とは、その表現が必要以上にオーバー過ぎたり、不自然な為に、聞き手がいらいらするような場合を指すでしょう。音声訳の場合は朗読がめざすところの「芸術的な表現」を求めているわけではありません。必要なのはあくまでも聞いて内容がよくわかる読み方であり、その為の表現読みの技術が求められます。もちろん会話は会話らしく読める技術は必要なのです。

一方、入門書などでは音声表現技術だけでは内容を正しく伝えようとしてもとても出来ないものが多く、それをカバーしながら読む音声変換技術が必要になります。また、前提として内容を理解する能力も求められることは云うまでもありません。4ページに藤本義一著の『現代商人道』という本の例文を掲載していますが、わずか1ページ程度の文章でも、カッコの処理、漢字の処

理、記号の処理、とさまざまに考えながら音声訳をしないでなりません。この文章が小説を読むように読めないことは誰にでもわかるはずですが、この文章を聞き手によくわかるように読むには表現技術とともに、どのように読むかを考えながら音声訳しないでなりません。この文章は活字で読む読者にとっては決して難しいものではありませんが、音声訳の仕方では混乱してしまうこともありそうです。これまでも述べてきたように、音声表現技術の指導者は晴眼者を対象にしたプロがいますが、活字で書かれているさまざまな内容を音声でより正確に伝える「プロ」はこの世界ではいません。あえて言えば音声訳者がそのプロを目指しているといえます。

原本は見える世界のルールで表現されていますので、私達は理解できますが、同じ様に音声にしたつもりでも活字内容と同じ理解にはなりません。まったく同じような理解になるように音声訳しようとするれば、今度はやたら音声訳者は補足をしないでなりません。それでは今度はかえってわかりにくくなります。最小限にしかも必要とするところに内容を混乱させないように上手に行う作業はまさにプロの仕事といえるでしょう。

内容が難しいからわからないというのと音声訳者の処理の方法がまずくて分からないのとではまったく違います。後者の場合は音声訳者の責任になります。その意味で音声訳の仕事が誰にでもすぐに出来るというのは間違いです。大変な熟練を要する仕事でもあるのです。

しかし、残念ながら「日本語を読むのは誰にでもできるので音声訳の活動は誰でも出来る」と思っている人はまだ多いようです。

これまで、このシリーズで例文をあげながら、処理の問題を考えてきましたが、問題が難し過ぎると云った声も聞かれました。しかし、これらの例文は当センターの音声訳者が処理をいろいろと苦労しながら行っているものばかりです。本によっては処理を考えている時間の方が多いものもあります。これらの本の音声訳に要求されるのは、音声に変換してもできる限り原本の内容を正しく伝える能力（センス）なのです。

盲人情報文化センターでは、この音声変換に関わる部分については職員が可能な限り関わり、音声表現技術に関わる部分はその指導ができる職員がケアを行っています。これは性質が違うケアを行っているわけですから当然のことです。

音声訳の原点は「さまざまな表現方法で書かれた文章をその内容を変えずに正しく伝える」ことであり、「墨字の表現の仕方や形をそのまま伝えること」ではありません。仮に形や形式が分かったとしても内容がわからなければ何も意味がないからです。

音声訳者は苦労しながら音声訳のセンスを磨いていくことになっていきますが、この『ろくおん通信』で紹介するさまざまな例は、普通に読んだのでは正しく伝わりにくい文章をどう処理したか、そんな例を取り上げて処理の例を紹介しています。音声訳者の苦労した経験を学びそれを生かしていただきたいと思うからです。

練習問題

『現代版商人道』藤本義一著

日本人は”道”が好きだ。

茶道、華道、香道、剣道、柔道、武道等々。明治に入ればコーヒーを可否道と名付けたりする。武士道、葉隠の精神に基づく道が生まれ、流通経済の時代になり大坂（大阪）を中心にアキナイが生まれると、今度は商道、商人道、というのが誕生する。

商をアキナイ、商人をアキンドと称するようになる。

私の父は大阪商人であり、長男の私を商人に仕上げたいと思っていたらしいが、これは実現しなかった。その理由は機会があれば述べるとして、父はアキナイの意味を次のように教えた。

「アキナイとは”飽きない”ことである」

と。飽きてしまっは商売は成功しないという意味である。

これは大阪人独特の言葉遊びの一種であろう。大阪人はどの関西圏の人間よりも言葉で遊ぶのが好きな人種だ。陽気なラテン系の気質を持ち合わせている。だから漫才の集団が発生したといってもいいだろう。

大阪人と比べれば、東京人は確たる理念に基づくのを人生の範としている傾向がある。ラテン系に対してアングロサクソン系といえる。それは縦社会を構成している。上方落語に真打制度がないが、江戸落語にはある。この点を考えれば、芸能世界にも縦の線が強く残っているのがわかる。武士社会が根強く現在に至るのがわかる。

この江戸の伝達（情報、指示）を簡単に書けば、次のようになる。

將軍→家老→幕臣→侍階級→庶民、という歴然とした縦に流れる伝達である。

この伝達は口を○とすれば、

○→○→○→○、○→○→○→○といった団子の串差しのよう表記される。

これに対して流通経済の拠点たる大坂は、瀬戸内の海路を通じて四国、九州、中国の米、塩、木綿、海産物が集まり、生産者の手を離れた商品は問丸（問屋）から仲買人（ブローカー）の手に渡り、中間問屋（総合商社といってもいいだろう）を何人かの仲介業者を経て渡り、小売店に到着して消費者の手に入るという経過を示すことになる。そして、大坂城には豊臣滅亡の後、再建されたとはいえ、一人も城主は登場しない土地柄であった。城代と呼ばれる代理行政官がいたが、伝達の権限は江戸の將軍の威力には遠かった。

だから町の情報にしても、商品の値段の変動にしても、問丸と中間問丸に介在する仲買人同士の言葉交換なり、符牒による交換によって決定していったわけで、これを図にすれば、○の重なり合った横一列となった、○○○○である。

この○は”輪”である。

正誤表から・・・その36

語句	誤読	正しい読み	語句	誤読	正しい読み
上座	ジョウセキ	カミザ	中山道	ナカヤマドウ	ナカセンドウ
服従	フクソウ	フクジュウ	悪気がアッテ	ワルゲ...	ワルギ...
白杖	シロツエ	ハクジョウ	気圧されて	キアツされて	ケオされて
茨木市	イバラギシ	イバラキシ	私怨	シオン	シエン

訂正 正誤表34に掲載の「愛想」は、アイソはアイソの読みもありました。訂正しておきます。

三通りの読み方がある各々意味が異なるもの・・・その23

羹	カ	餅菓子、雑煮	下方	カカ	したの方。しもの方。
	ケ	中華料理で汁物、あつもの		カカ	身分の低いこと、人。
御供	オモ	つき従っていくこと。	小職	ゴシヨク	見習い弟子。特に娼家で使う女児。
	ゴク	神仏に供える物		ケク	官職についている人の謙称。
	オモ	御供物、御供餅の略			
上野	ウエノ	三重県の西部の市。東京都台東区の地区。	気絶	キゼツ	一時的に気を失うこと。
	ウヅケ	カヅケ/略、旧国名、今/群馬県		ケダエ	鉾山などの坑内で通風が悪く呼吸の困難をきたすこと。

『ろくおん通信』有料化のお知らせ

94年より郵送代が大幅に値上がりした為、今年度より郵送代等をグループの方にはご負担をお願いすることになりました。現在、『ろくおん通信』をお送りしていますグループは70近くに増えています。発送作業や印刷も負担になってきていますので、発送部数は最高で30部までと制限させていただきます。この『ろくおん通信』を希望されるグループは、同封の申込書に記入のうえ係まで郵送して下さい。

550 大阪市西区江戸堀1-13-2

盲人情報文化センター

録音製作『ろくおん通信』係

電話 06-441-0015



きれいに録音する為に (第3回)



録音機のセットの仕方



前回、ソニーから家庭録音専用機が発売されるという情報を紹介しましたが、いよいよ今年6月頃には点字図書館などをルートにして購入できそうなところまで来ているようです。価格はメーカー側の予定では定価39,800円程度を考えているようです。しかし、このシリーズの録音機であれば、3万円弱で購入出来ますので、約1万円程高くなりそうです。専用機の方が得になるかどうかはまだハッキリしませんが、再生時に2倍まで早くして聞くことが出来たり、分岐コードがいらなくなったり、録音ボリュームが2倍まで強化されたり、耐久性が強化されているようですから、予算と相談して決められたら良いのではと思います。

さて、今回は録音機を家庭でどのようにセットするかを考えます。

1. 部屋選び

録音の機械をセットする場合まず、録音に一番適した場所を決めます。

点字図書館などで録音用に使用しているスタジオは、外の音を遮断する為に、二重構造になっていたり、足音などが録音されないように床が浮いているものもあります。ドアには鉛も使われ、外の雑音を遮断するようになっています。また、スタジオの中は反響音が出ないように柔らかいもので周りを囲んだり、吸音板などが使われています。スタジオと同じ条件の部屋は一般の家庭にはないでしょうから、この条件に少しでも近い部屋を選ぶことになります。

1) 部屋はできるだけ静かなところを

例えば、冷蔵庫があってブーンという音が入るようなところは定期的に雑音が入りますので避けます。また、窓が道路側にあつて外の音がよく入るところも避けましょう。もちろん道路側にあつても車がほとんど通らないなど静かな場所であれば問題はありません。

2) 音を反射しない部屋

洋間などは比較的静かな部屋が多いと思いますが、まわりに堅いものが多いと音を反射しやすくなります。よく音が反響しているのはそんな部屋で録音している場合です。しかし、洋間の場合でも後で紹介しますが、音を反射しないような工夫をすれば録音室としても充分使えます。

3) 一旦決めた場所は変えない

部屋選びをする程たくさん場所がある方は少ないでしょう。畳半分くらいの場所を部屋の角にでも確保できれば、何とか机を置いて録音機をセットすることはできます。しかし、毎回違う場所で録音するなどといったことは避けてください。録音する場所が変わると音質も変わってしまうからです。後で訂正などをするときには前の音と合わなくなりますし雰囲気も変わります。

2. 録音室の作り方

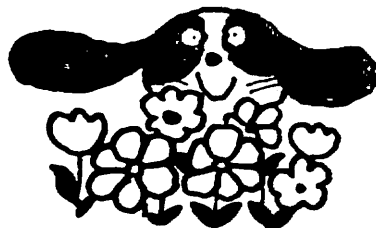
まず外部の音を遮断する為に窓は閉めます。カーテンは、音声訳者の声を吸収するように閉めます。洋間のような周りが堅い壁や板の床では反響音が強くなりますので、床や壁の周りにできるだけ音を吸収するものを配置します。

机の上にも柔らかいものを敷きます。これは、机の面からの反射音を吸収する役割と、雑音を防ぐ為です。何もしないと本などが机の面に触れて雑音を出したりします。柔らかいものであれば毛布や座布団などでも結構です。

次は机のまわり三方を柔らかいもので囲みます。座布団などを立ててもかまいません。これで一応簡易の録音室のできあがりです。よく段ボールなどを囲みに使われる方がありますが、段ボールは音を反射しますので声がこもってしまいます。段ボールを使う場合も内側には音を吸収するものを使用すればよくなります。

次はカセットデッキのセットです。カセットデッキは机の上には置きません。録音時の操作音や振動音などが机を通してマイクに録音されてしまうからです。机の横に台を置いてそこへ置くようにします。カセットデッキはカセットテープやメーターなどがよく見えるところにおきます。操作はリモコンを使って行う方が操作音も入らずきれいに録音されます。リモコンの届く範囲に置きます。

マイクスタンドを使用する場合はスタンドの下には柔らかいものを敷きます。これは机の振動などがスタンドを通して録音されないようにする為です。マイクの距離は個人差がありますが15cmから25cmくらいになるようにセットします。が、そのようにすると読む本はマイクの位置より遠くになるはずですが、ですからマイクを正面にして読む方はマイクがじゃまになってきます。もし、マイクを天井から吊るすことが出来る場所であればそれが一番安上がりで理想的です。



つづく

★▽●◇□ 処理のポイント ★▽●◇□

下線をしたところが音声訳者がどう読むか、補足するのかわからないのかなど迷うところではないでしょうか。

道 → ○ドウ ×ミチ ドウの補足はすぐ後に華道とか茶道とかがあるから必要ない。

可否道 → カヒドウ 優良可の可、否定の否

大坂(大阪) → 字が問題になっていないのでかっこは省く。

飽きない → すぐ後に説明があるので補足の必要なし。

「→」 → ヤジルシ

○→○→○→○、○○○○ → マルヤジルシ、マルヤジルシ マルヤジルシで、マルを一本の線が貫く、といった団子の串刺し……

(総合商社といってもいいだろう)

→ 総合商社といってもいいだろう。中間問屋を何人かの…そのまま読むと、「中間問屋、総合商社といってもいいだろうを何人かの……」とするとつながりが分かりにくい。

○○○○ → 形
×単に「マルマルマルマル」と読むだけでは、何のことだか分からない。何々という云う意味の「マル、マル、マル、マル」に取られそうです。

輪 → このマルはワ、リングのワ、である。平和の和と思う人も多いようです。

資料紹介

『ボランティア活動のために』シリーズ
第5集 西洋医学編
中條弘子著(国立国会図書館学術文献録音員)
B5判 32頁 350円

医学関係の本を音声訳されている方に役立つ資料です。
医学関係用語の読み方、図、表、注の処理、医学辞典の特徴(目次より)